

Interview 首長

福井県小浜市長 松崎 晃治氏



舞鶴若狭道生かし集客 3つの「駅」連携で回遊性

小浜市 福井県の南西部、若狭のほぼ中央に位置し、人口は約3万人。農林水産業や観光業が盛んな一方、電機部品などの工場も立地する。古代から日本海側屈指の要港として栄え、各地の物産が「鯖街道」を経て京都などに運ばれた。昨年春には「御食国若狭と鯖街道」として日本遺産に選ばれた。NHK朝の連続テレビ小説「ちりとてちん」の舞台にもなった。

——福井県と京都府、兵庫県をつなぐ舞鶴若狭自動車道（舞若道）が2014年7月に全線開通した。沿線の小浜市の観光集客はどうか。

県の歴史博物館のほか、食文化館を中心とした「海の駅」などで観光客が増えた。国宝がある明通寺など、お寺にも波及効果が出ている。秘仏を巡るツアーも人気だ。もう少し、街中に観光客を呼び込むことができればと考えている。

——最後の開通区間が小浜インターチェンジー敦賀ジャンクションだった。観光客は小浜市を通過しなかったか。

小浜が終点でなくなることから、観光客は減るのかと思ったが、むしろ増えたようだ。便利になった中京方面を中心に増え、

定着しつつある。

——今後、観光集客に具体的にどう取り組むか。

街中に明治時代の芝居小屋を中心とした「まちの駅」を整備中で、5月ごろにオープンする予定だ。重要伝統的建造物群保存地区に近い。舞若道の小浜インター前の「道の駅」、漁港近くの「海の駅」そして新しい「まちの駅」の3駅が連携し、観光客の回遊性を創出したい。

「道の駅」は玄関口としての役割を果たす。新たにレトロ風バスを街中まで走らせることを計画中だ。もともとコンパクトな小浜の街を楽しんでもらうようにしたい。

——市の総合戦略で、19年度の観光交流人口の目標を2割増の200万人とした。

昨年春、日本遺産に「御食国若狭と鯖街道」が選ばれた。さまざまな面白いストーリーがあり、魅力発信に力を入れたい。司令塔の役割を担うのが「道の駅」を運営する第三セクター、おばま観光局だ。イベント企画などに期待している。しっかり取り組みれば、200万人の達成は

まつざき・こうじ 1981年大谷大文卒。福井県教職員を経て95年県議に初当選。2005年に県議会議員に就任。08年の小浜市長選で初当選。現在2期目。健康づくりの一環で、自宅でウエートトレーニングなどにも取り組んでいる。57歳。

可能だ。

集客が増えれば、地元食材の需要が高まる。「若狭もの」で知られる魚は重要だ。福井県立大学海洋生物資源学部、県の栽培漁業センターなどと連携し、水産物の生産拡大に取り組む。

——与党による北陸新幹線の敦賀以西ルートを検討が今年、正念場を迎える。

小浜を通る若狭ルートを推奨したい。国土の均衡ある発展や国土強靱化にも寄与するからだ。若狭に新幹線が通るということは、金沢、小浜、京都という古い都市がつながる面でも意義があるのではないかと。

新幹線が敦賀駅に開業するまでに、小浜市の街中の整備を進めていく。金沢市が取り組んだように、準備していきたい。敦賀開業になれば小浜線で来られる方が増えるので、駅の魅力づくりも課題となる。

（聞き手は福井支局長

石黒 和宏）